



北海道藤野付牛中学校
北海道立北見中学校
北海道北見高等学校
北海道北見北斗高等学校

東京とどの実

〈発行〉
東京とどの実会 事務局
〒113-0034 東京都文京区湯島 4-6-11
湯島ハイタウン A-207
http://www.tokyo-todonomikai.com
mobile 080 - 2123 - 7380
mail tokyotodonomikai@gmail.com



同窓生紹介

Interview



小学五年から高校まで過ごした北見には画家としての原点があり、いずれ戻って創作に没頭したいと思っていたという伊藤さんにお話しをうかがいました。45年ぶりで帰った北見で迎えてくれたのは懐かしい友人達ときれいな青空だったと話を切り出されました。転居の準備は運転免許の取得から始まりまし。都会生活では不要だった車も北見生活には必需品です。二〇一二年57歳での挑戦でしたが、何

とか一回で合格。次に母校北斗の近くに家も建て、膨大な量の作品と共に3年前の10月に転居しました。真っ盛りの紅葉が青空に映えて、かつて暮らしていた町なのに、見える景色は驚きの連続だったそうです。以来ずっと空の美しさに心惹かれ四季おりおりの北見の風景を心に留めながら歩き回っています。

絵の原点は北見の青空

昭和48年卒 伊藤 彰規さん 画家

もちろん創作意欲も旺盛となり、念願だった広いアトリエで好きな音楽を聴いたり本を読んだりしながら日々キャンパスに向かっていきます。伊藤さんの作品で重要な色の青は北見の空に広がるブルーからきているそうです。文化庁の派遣留学生としてパリに滞在したとき、当地の夏の濃い青空が子供の頃見ていた北見の空と同じと感して、少年時代の記憶が呼び醒まされたとのこと。以来青を使うことが増えたそうです。北見



では自然豊かな場所に足を運び、オホーツクの光や風、大地を全身で感じて、自分の中のために描いているのは抽象画ですが、見た人から「北見の空や雪原を感じる」と言われることもあり、自然に北見らしさを描いているのかもかもしれませんと話を締めくくられました。伊藤さんは年に一回銀座の画廊で新作個展を開催しています。昨年は北斗多摩美術大学と同期の矢萩典行さんが同じ銀座一丁目でも同じくして陶芸の個展を開催し、同級生がたくさん集まっています。また、4年前からフェイスペインクにて毎週月曜日に作品を投稿しています。帰北後は移り行く北見の四季の画像も文章と共にアップしてい

2021年度「東京とどの実会の集い」中止のご案内

昨年に続き、コロナ感染症の勢いが衰えないため、本年の東京とどの実会の集いの開催の可否を役員・幹事会で検討し、中止することにしました。来年は開催できることを役員・幹事一同、願っております。

副会長 昭44年卒 生駒 篤
会長 昭42年卒 角 論
副会長 昭39年卒 村田 由美子
監査 昭34年卒 馬場 正孝
顧問 昭37年卒 半田 護
名譽会長 昭26年卒 小山内 清孝
副会長 昭50年卒 田上 博志
幹事長 昭52年卒 引地 聰
副幹事長 昭48年卒 矢萩 典行
幹事 昭53年卒 渡辺 由紀子
昭61年卒 鎌田 哲生
昭56年卒 吉見 じゅり
昭40年卒 石渡 俊弘
昭40年卒 前田 良三
昭42年卒 平澤 芳樹
昭43年卒 池田 順子
昭43年卒 木村 篤
昭44年卒 井上 順治

昭45年卒 岡田 光弘
昭45年卒 池田 好美
昭46年卒 松田 寛
昭49年卒 伊東 千鶴子
昭50年卒 村上 幸子
昭55年卒 立崎 幸子
昭58年卒 大場 伸子
昭59年卒 久保 依子
昭59年卒 柳田 美和
昭62年卒 米地 徹

東京とどの実会

●会員数 1,110人 2021年3月31日現在
●会費納入数 183人 2021年3月31日現在
●総会出席者数
2018年 106人 アルカディア市ヶ谷
2019年 130人 ホテルモントレ半蔵門
2020年 中止

平成31年度会計報告書

自平成31年4月1日 至 令和2年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越金	1,847,280	製本印刷費	180,000
総会懇親会収入	793,000	総会懇親会費	948,988
年会費収入(254口)	508,000	通信交通費	306,743
寄付金収入	171,000	消耗品費	9,385
預金利息	12	渉外費	63,806
		会合費	83,067
		支払手数料	36,094
		次期繰越金	1,691,209
合計	3,319,292	合計	3,319,292

お亡くなりになった方 (2020年)

ご冥福をお祈りいたします。

昭和23年卒 松金 勝 昭和42年卒 岡本 和子
昭和31年卒 高森 巖 昭和43年卒 藤井 寿和
昭和32年卒 高橋 栄 (敬称略)



昭和42年1月冬期体育祭



昭和49年熱気球実験



昭和59年見学旅行



昭和60年文化祭・仮装行列

編集後記

・昨年はコロナ感染症のため「東京とどの実会の集い」が中止になり今回の会報は縮小版です。まさか今年も中止とは…残念です。ワクチンといえばコロナワクチンが真っ先に頭に浮かびますが、意外に知られていない帯状疱疹のワクチン、ご存知ですか。帯状疱疹は水疱瘡のウイルスがストレスなどで活動を再開することで起こります。北斗からの友人が帯状疱疹のひどい症状で最近2週間入院しました。後遺症で嚙下障害、声帯麻痺に苦しんでいます。50歳以降、高齢ほど発症率が高く80歳までに約3人に1人が発症すること。詳しくは医師にお聞きください。私の周りに数人経験者がいますが後遺症の神経痛はかなり辛いようです。私は昨年帯状疱疹ワクチンを接種しました。(N.Y)

来年は母校創立百周年

東京とどの実会長

昭和42年卒 広川 正三



コロナ禍の影響で昨年中止になり本年六月に延期されていた『第70回東京と

どの実会の集い』は役員幹事会で慎重に検討した結果まことに残念ですが再度中止・延期することになりました。毎年楽しみにされている会員のみなさんにとって2年連続の延期になりますが新型コロナウイルスから皆さんを守るためには再度の延期もやむを得ないとの結論にいたしました。1日も早くコロナ禍が終息し来年は必ず開催できることを心から願うばかりです。

来年二〇二二年は母校創立百周年にあたります。母校は大正11年（一九二二年）4月15日「北海道庁野付牛中学校」として開校しました。その後、「北海道庁立北見中学校」「北海道北見高等学校」「北海道北見高等学校」と校名は変わりましたが文武両道 質実剛健の校訓の基、勉学にスポーツにオホーツク管内屈指の伝統校として3万1千余名の卒業生を世に輩出してきました。北見の「とどの実会」では開校百周年に向け記念事業を計画しているとのことですので、東京とどの実会も連携して母校創立百周年を祝いたいと考えています。

コロナ禍での近況を語ってくれました

昭和52年卒 引地 聰

コロナ禍のミュージアム運営

現在、日本に企業ミュージアムは七五〇館以上あると言われていますが、いずれもこのコロナ禍において休館、あるいは予約制の導入や入場者数を絞るなど、大きな制限を余儀なくされています。私の勤務する花王ミュージアムは企業ミュージアムですが、「清浄文化史」の展示を中心として、二〇〇七年に開館しましたが、現在、一年以上休館しています。



花王ミュージアム

このような状況で、多くのミュージアムが認識したことは、「館」としての物理的な存在だけでは今後ミュージアムを運営して行けない、つまり、ネットを通じた見学などが必須である、ということです。言い換えると、「時空を超えて繋がるミュージアム」でなければならぬ

で交友を深め酒を酌み交わしたのが始まりで、異郷の地で母校を共にする者たちが年に一度くらいは集まって声高らかに校歌を歌おうじゃないかという趣旨で定期的な集いとなったそうです。以来、諸先輩たちのご努力のお陰でクラスメートに再会できる場、懐かしいあの頃に戻れる場、世代を超えてたくさんの新たな校友との出会いの場として継続発展し今日まで69回の集いを開催するに至っています。

開催にあたっては、ちょうど50歳・60歳の卒業生に当番幹事になってもらい運営を手伝ってもらおうのが恒例になっています。50代60代になるまでは仕事に人生に必死で東京とどの実会にはなかなか関心が持てなかつたという人が多いのですが、当番幹事を担当したことがきっかけになり同期会が盛んになるということも珍しくありません。来年は52期62期の皆さんが当番幹事ですので、この機会に同期の絆を更に深めてください。

来年の第70回集いは70回という節目の記念大会でありかつ母校創立百周年に重なる意味深い集いとなりますし、2年連続の延期で待ち遠しい限りです。コロナ禍が退散し会員の皆さんに無事再会できることを心から念じています。

ワクチンの接種が普及し効果がでるまでまだ時間がかかりそうです。会員のみなさんにおかれましてはこれまで通り「感染しない・させない」、不要不急の外出・三密を避けマスク・うがい・手洗いを励行してください。元気でさえいればまた必ず会えます。それまでくれぐれもご自愛ください。ますよう願ってやみません。

い、ということですが。

新型コロナウイルス感染拡大は大変な危機ですが、同時に、いつでもどこからでも楽しんで頂ける（勿論リアル訪問も含めてですが）、ミュージアムに変化するチャンスを与えてくれていると認識し、日々取り組んでいます。

コロナによって変わった距離感

平成14年卒 三好真理子

現在化粧品メーカーで研究職の仕事をしています。

2020年2月末、突然会社社より

通じた見学などが必須である、ということです。言い換えると、「時空を超えて繋がるミュージアム」でなければならぬ



在宅勤務と出社を組み合わせる形態を取っている。この勤務形態の変化は、

高校時代・旧校舎の思い出

昭和40年卒 前田 良三

私達は創立40周年を迎えた昭和37年（一九六二年）に入学した。9月には創立40周年式典が体育館で挙行されたが、バスケットボールコートが2面取れる体育館は当時の道立高校では最大のものであった。大正12年（一九二三年）の秋に完成した旧校舎は当時既に39歳を迎える老校舎であったが、私の眼には黒光りする風格ある建物に思えた。前庭には多くのポプラが生い茂り、5月下旬には白い綿のような花が舞い飛ぶ大変牧歌的な風景だった。仲の良い友人たちとその庭で弁当を広げて学校生活や将来について語ったことが懐かしく思い出される。

1年時の芸術科目は、絵画が苦手な書道を選択した。1週目は練習、2週目は提出用の清書だったが、1週目は前庭にあった図書館へ行って仲間と雑談し、清書日には上手な級友が練習で書いた半紙を貰い受けて自分の名前を書いて提出することもあった。級友は80点、譲り受けたものは78点。因みにお爺さん先生に頼み込んで書いて頂いた半紙を提出したら85点だった。なんとも長閑な良き時代であったと思う。

3年時は正面左側の2階の教室で、真下は職員室だった。大掃除の時にバケツの水を撒いて掃除に励んでいたところ、水漏れのする職員室から先生が来られて、「随分頑張っているな」と言って帰っていた。

様々な変化を引き起こした。いちばん大きく感じるのは距離感の変化である。在宅勤務により、会議は基本テレビ会議になった。そうすると、ネットワークさえあれば、例え海外の事業所でも気軽に話し合えるようになり、距離感が大きく縮まったように感じる。一方で、対面で仕事をしていた人と直接会うことは難しくなり、あらゆる人との距離感が一様になつていくように感じる。

悪い面だけではないが、今、同じ空間を共有出来ることの尊さを強く感じる。

昭和59年卒 渡邊 範道

当たり前を取り戻すまで

電車に乗っている人すべてがマスクをしている光景を見て、最初は怖い映画のワンシーンかと思いましたが、今ではすっかり日常の風景となっています。新型コロナウイルス禍は、一年たった今でも収束の気配はありません。

学校も全国一斉休業、再開後のオンライン授業開始、インターハイはじめ部活動の大会中止、体育祭、文化祭、修学旅行など学校行事の中止や縮小など、これまで体験したことのない一年となりました。それまでの当たり前を突然失った子供たちは、とても辛い思いをしたことと思います。小中高校生の自殺が過去最多になったというニュースも報じられました。本当に心が痛みます。

私は、都立高校の校長として、突然の一斉休校の対応や、保護者や在校生の



文化祭・仮装行列「天狗まつり」

かれたのも懐かしい思い出である。

高校生活の中でも特に思い出深いのは文化祭・仮装行列だ。1年時は「ガリバーと小人達」、2年時「海賊バイキング」、3年時「天狗まつり」と大きな出し物が続いた。特に3年時の「天狗」は創立70年史にもその写真が掲載されるほど、市民からの評価も高かった。1年時の頃は学校への泊まり込みも暗黙の了解であったが、年々厳しくなり3年時は夜10時頃には下校の指示があったように思う。夜の暗い前庭で、出し物である天狗みこしの準備、仮装行列の衣装や小物の作成、炊き出しの準備等、男女協力しての作業は青春の一ページを飾る思い出である。

このクラスは卒業後も変わらず大変仲が良く、今年後期高齢者になる今でも全国各地で修学旅行クラス会を開いている。これまでに大阪・京都、東京の隅田川屋形船、富山・風の盆、有馬温泉と宝塚観劇、小樽と積丹半島、十勝岳温泉と旭川、ウトロ、野付半島、十勝川温泉などを皆で訪れた。もうすぐ喜寿を迎えるが、その先の傘寿、米寿までクラス会が続くことを願っている。

いない卒業式の実施を慌たたく終え、別れを惜しむ間もなく都教育委員会に異動となりました。その後も、歓迎会や事業の打ち上げ等懇親会はすべて中止。新型コロナウイルスは、人との交流や親睦が大好きな私のような人間を直撃した凄惨なウイルスだと思えます。

とどの実会の幹事会や総会も中止となり、寂しい限りです。改めて、これまでの当たり前のような出会いを失うことの意味を重く感じる日々です。都庁でもテレワークが推奨され、私も家族との時間と家飲みは増えましたが、リモートの会議や飲み会には、新たな可能性を感じつつも、人が直接交流する機会を減らす寂しさを感じます。

本会の活動も、今は我慢の時だと思います。コロナ禍の収束後に、皆さんと直接お会いして、これまで脈々と培ってきた本会の当たり前の「よさ」を取り戻せる日が来ることを楽しみにしています。



★年会費納入のお願い★
東京とどの実会は会員のみみなさんからの会費で運営しています。今年度分の年会費も会場受付でいただくことができませんので、同封の払込取扱票にて振込いただけますようご協力をお願いいたします。